

言問い(こととい)：50周年記念植樹イチイに命名されたものです。

令和6年度 西春別中学校 第11号

こととい

令和7年1月31日 発行



< 校 訓 >

自 主 友 愛 有 能

< めざす生徒像 >

- ・自ら学び考える生徒
- ・心と体を鍛える生徒
- ・協働する生徒
- ・郷土を愛する生徒

発行責任者 校長 綾野 正巳



今年は、昭和？年

西春別中学校長 綾野 正巳

2025年は「昭和100年」であることをご存知でしょうか？

何を今更「昭和」なんて、と思うかもしれませんが。それもそのはず、昭和とは1926年12月25日から1989年1月7日までの期間で、昭和という時代が終わってから既に35年以上が経過しています。(昭和の始まりと終わりは共に7日間という偶然があります)さらには、次の平成さえも今になってみれば一瞬で幕を閉じたような印象があります。

私が幼い頃は、「明治生まれの頑固者」という言葉がありました。私の祖父もとても厳しい人で、その言葉は本当に正しかったと思っています。もしかしたら私も「昭和生まれの頑固者」「昔はよかったとばかり言う昭和人」になっていないか不安になることがあります。私にとっては、「明治」は遙か昔であり、教科書の中の世界でしかありません。今の子どもたちや若い先生方にとっては、「昭和」も同じイメージなのかもしれません。

冬季休業中に、管理職を対象とした学校経営の研修会に参加しました。大学教授が講師だったのですが、その中で一番印象に残ったのが「成功体験が邪魔してませんか？」という言葉でした。ドキッと刺さりました。管理職くらいの年齢になると、生徒指導でも教科指導も「こうするとうまくいった！」という経験をもっています。その経験だけからものを言うと今の教育現場では通用しなかったり、足かせになったりすることがあるということでした。平成の日本経済の停滞は、戦後の高度経済成長やバブル経済の成功体験が足かせになっていたのかもしれない。

豊田章男氏(旧トヨタ社長)の著書にこんな言葉があったことを思い出しました。



厄介なのが成功体験です。世の中は変わったのに「以前はこれで成功した」とか「なんで変えるのか」と言い出した途端、成長は止まります。

以前は企業にとっての話と捉えていたのですが、学校現場でも同じことが言えるようです。教育現場も、社会の変化に合った教育方針にアップデートしていかなければならないことをあらためて認識しました。親としても、自分の昔の経験だけをもち出して子どもに説教をするような「うざい昭和おやじ」にならないように気を付けなければと思っています。

今年は60年に1度の乙巳(きのとみ)

「木」の性質をもち成長の兆しを表す「乙(きのと)」と、「火」の性質をもち発展や転換を象徴する「巳(み)」が組み合わせる2025年は、**変化と新たな挑戦のエネルギーが高まる年**とされています。いろいろな節目となる2025年、生徒達・我々教職員が社会の変化を捉えながら、大きく成長できるよう努力して参ります。地域の皆様、保護者の皆様、2025年もよろしく願いいたします。

